

返子市高齢者保健福祉計画

資料2

【個別計画進行管理総括表】



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	高齢化の急速な進展や、地域社会・家族関係が大きく変容していく中において、高齢者が住み慣れた地域で、安心して住み続けることができ、人生を豊かに過ごすことができるような地域社会の構築を進めていかなければなりません。 年齢を重ねてもできる限り要支援・要介護状態とならないための予防の取り組みや、介護サービスの基盤整備を進めていくとともに、多様な生活ニーズや地域課題の把握に努め、介護、医療、行政、地域などが連携したネットワークを構築し、いつまでも心豊かに、自分らしく暮らしていけるような環境づくりを進めていきます。
---------	---

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見（個別計画の懇話会等が作成）	
各事業は概ね計画通り実施できているが、新型コロナウイルス感染症による会議・講座の開催が困難な影響もあり、目標達成が困難なものもある。今後は、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえつつ、書面・ウェブ開催なども視野に入れ、要支援・要介護状態にならないための予防の取組を強化していく。		新型コロナウイルス禍による介護予防施策実施などが困難であったことは十分理解でき、その様な制限下で様々な工夫により取り組みを実行し、奮闘した。そのことを考慮すれば概ね計画通り順調に行われている。コロナ後にどのような対策や活動をすべきか、コロナ禍の経験を通しての知見を土台に、WEBの活用及びWEBが苦手な人への対応含め、今後の社会状況の変化に柔軟に対応しつつ新たな計画や展望、左記の検討及び実施を期待する。	
個別計画の評価(施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	地域包括ケア体制の推進	・地域包括支援センター運営事業 ・地域包括ケアシステム推進事業	市社会福祉課に地域共生係を新設し、地域包括支援センターの運営や地域包括ケア会議の開催(書面開催)を通じ、地域包括ケアの推進を図っている。	2	(2)		地域包括ケアが十分にその機能を発揮することを願い、そのためにも、事前評価と事後評価を重視してもらいたい。高齢者の生活全体への支援を念頭に、庁内の連携体制の構築を期待。高齢者と共に地域で年齢に関係なく若年の障害児なども平等に生活できるような、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活ができる地域共生社会づくりを期待。
2	生きがい・介護予防施策等の推進	・高齢者介護予防事業 ・介護予防・日常生活支援総合事業 ・介護予防普及啓発事業 ・高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	新型コロナウイルス感染症の影響で講座等の自粛を余儀なくされたが、「返子どこでも体操」の考案、パンフレット及びDVDを作成。地域包括支援センター職員が自宅訪問し、介護予防のための活動に早期につなげるなどの実績をあげている。	4	(4)		コロナ感染対策を重視したため、対面での活動が難しい状況にあったが、介護予防活動の実績を低下させなかったことは評価できる。コロナ禍の工夫の継続等柔軟な対応及び更に活発的な介護予防の推進を図り、コロナ後を見据え頑張ってもらいたい。住民主体のボランティアな団体への感染予防支援や運営費への補助拡充等への検討が必要。
3	認知症施策の推進	認知症地域支援推進事業	認知症サポーター数は目標を達成。認知症初期集中支援チーム員会議は提案事例と開催回数が増加し、初期集中支援が順調に行われている。	1	(1)		認知症サポーター数の数値目標達成、認知症初期集中支援チーム会議の開催回数増加したことは評価すべきで、今後も順調に推進することを期待するが、初期集中支援チームの活動が余り見えない。地域住民が温かく見守り、安心して暮らせるまちづくりのために、身近な生活圏域における見守りや声かけなどのネットワークの構築・支援策の充実を図ってもらいたい。この閉鎖的環境の為か、急激な認知症の進行が目立っており、急な進行に対応できるようサポートが必要。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

客観的に評価されている。突然のコロナ禍で苦労が多く、結果は想定通りには行かなかったが、地域共生係を設置するなど、事業管理体制の整備向上がなされた。「地域包括ケアの体制推進」の初動としては、適切な対応。地域共生社会の実現に向け、高齢者の生活をトータルに支えていく包括的支援体制の強化が必要。その際、多機関との連携・協働は、高齢者の生活現場により近い生活圏域での協働の実現を目指し、各地域包括支援センターを拠点とし、ふれあい収集事業、郵便事業、コンビニ・タクシー事業等の連携による独居高齢者や認知症高齢者等に対する見守り・支援のネットワークの構築が必要。地域包括から更に手を広げ地域共生へと着手したのだから、横割りの体制を強化し、更なる多機関との協働・連携を進め、有効な結果を導き出すことが重要。

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

高齢者の地域生活をトータルに支えるためには、福祉・保健・医療等の連携だけでなく、交通政策やまちづくり政策部門との連携など横連携も必要。高齢者の社会的活動を支援し、自立支援・介護予防を推進するためには、移動支援の拡充が不可欠の要件。改めて多くの谷戸に展開する逗子市の住所地の特性と、高齢者の移動環境の実態を踏まえた、「縦割りの壁」を超え常に横連携を意識し、移動支援施策の検討が必要。他の計画とも相互連携を図り、各事業は手を取り合って意見交換しつつ事業推進していくことを期待。円滑に事業を進めていくためには「連携」が鍵になる。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

福祉における対面交流の重要性を忘れず、高齢者の生活実態に即応するきめの細かい対応として、高齢者へIT技術をどのように提供するか、ワクチン接種申請支援のあり方、接種会場への移送支援等、検証が必要。新型コロナウイルス感染症と共存し得る事業推進とそれに向けた改善として、講座等へのワクチン修了者から参加できる、又は規模を変えて開催等の検討をはじめ、WEBの活用方法を模索し、内容を充実してはどうか。地域包括支援センター運営事業について、令和3年度から各地域包括支援センターに相談支援包括化推進員を配置し、高齢者に限らず総合相談を行うこととなったが、相談支援包括化推進員のみでは対応できないため、他の包括支援センター職員も総合相談を受ける必要があり、従来業務に加えた業務を担う必要がある一方で、相談支援包括化推進員の業務範囲に制約がある。従来業務の圧迫が予想されるので、相談支援包括化推進員の増員を図るなどの方策を考えてもらいたい。

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

ZOOM等のオンライン面談や見守りシステムの支援準備、施設における別室窓ガラス越し面談準備、高齢者に難しくないシステムが必要。独居老人だけでなく、老・老所帯も視野に入れて対応してほしい。認知症サポーター数などは更に今後に期待したい。移動支援の拡充に向けた交通施策との連携について、高齢者等の移動手段の確保を目的とした「地域公共交通活性化再生法」の改正を踏まえ、既存の地域の生活交通の在り方の見直し、新たな「地域公共交通計画」の策定に向け、バス・タクシー事業者と連携した検討機関の設置を要望する。併せて、福祉バスの運行方法の見直しや、路線バスの低床化・ノンステップ化の促進について、事業者との協議を要望する。足腰が弱った高齢者等は、通常のステップの高さのバスでは乗車が困難なため、サービス会場まで移動できないケース有。逗子市の実態に基づいた計画策定とそれに対するPDCAの展開が必要。



逗子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】 1-3 1		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち 3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所 管 名	1410 社会福祉課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円
事業名 地域包括支援センター運営事業			
事業概要	目的 介護保険法の規定に基づく地域包括支援センターに関する業務を運営する。		
	対象 要支援・要介護認定を受けている者又は要介護状態となるおそれのある高齢者とその家族		
	手段 逗子市社会福祉協議会及び医療社団法人清光会へ運営を委託する。地域包括支援センターの業務効率化や、市との連携の円滑化を推進するため、プライベートネットワークを使用したソフトウェアを使用し、業務管理を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	○高齢者に限らず、障がい、子ども、子育て、生活困窮者に対応する相談支援体制を構築する ○各センターに包括化相談支援推進員を配置	○高齢者に限らず、障がい、子ども、子育て、生活困窮者に対応する相談支援体制を構築する ○各センターに包括化相談支援推進員を配置	【第8期逗子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】
地域共生社会の実現を推進し、高齢者に限らず、障がい、子ども、子育て、生活困窮者に対応する相談支援体制を日常生活圏内に3ヶ所整備する。			0ヶ所

<2020年度 進捗状況>

事業費(2020(令和2)年度実績額)

円

実施結果	○市社会福祉課に地域共生係を新設し、基幹型地域包括支援センターを高齢介護課から移管した。相談支援包括化推進員を配置し、多機関協働による包括的支援を行った。 ○約30事例の複合的な課題を有する事例に対応し、伴走的な支援を実施した。新型コロナの影響により潜在的な課題が顕在化した。 ○各地域包括支援センターに相談支援包括化推進員を配置する準備を行い、令和3年度より重層的支援体制整備事業を実施できるようにした。		
	反省点・問題点	属性を超えた相談支援については、知識や技術を要するため、研修やOJTによるスキルの向上が必要。 重層的支援体制整備事業の新規事業を各センター職員ができるよう調整する必要がある。	工夫している点 先駆的な取組として、多機関と協働しつつすすめている。生活支援体制整備事業についても多世代で取組むよう意識を醸成している。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
令和3年度から、各地域包括支援センターを1か所づつを総合的な福祉の相談窓口として設置することができた。	ア ①予定どおりに進捗		(a)順調である

<審議会・懇話会等の意見>

地域共生係の新設により、地域包括ケアの推進を図っていることや、コロナ禍の中で順調に推移していることは評価できる。新たに設置した地域共生係が、各地域包括支援センターと連携し、民間の公共サービス事業者や地域の住民組織と連携し、多様なネットワークの構築及び庁内の他部署との縦割りの壁を作らず、総合的な施策の構築を期待。多機関との協働のみならず、有効性を基に機能中心で進めてほしい。地域共生社会の推進に向け、大変であるが更に頑張ってください。	審議会等が妥当と考える評価区分 (a) 順調である
---	------------------------------

返子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち		
1-3	2	3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち		
所 管 名	1430	社会福祉課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	
計 画 事 業 費【2015～2022年度】		610,912 千円		
事 業 名 地域包括ケアシステム推進事業				
事業概要	目 的	重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築し、推進する。		
	対 象	65歳以上の高齢者もしくは要支援・要介護認定者及び高齢者を支える自治会・町内会、ボランティア、介護事業者等		
	手 段	地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じてシステムを構築する。・地域の課題の把握と社会資源の発掘(ニーズ調査、課題の把握、社会資源の発掘)・地域の関係者による対応策の検討(介護保険事業計画の策定、地域包括ケア会議等)・対応策の決定、実行(介護サービス、医療介護との連携、生活支援、住まい、人材育成)		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	
	2022(令和4)年度			
年度別計画	○地域包括支援センターの運営	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	・総合相談支援 ・在宅医療・介護連携の推進 ・認知症施策の推進 ・生活支援サービスの体制整備	→→→→→ →→→→→ →→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→ →→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→ →→→→→ →→→→→
年度別計画	○地域包括ケア会議の開催 ○小規模多機能型居宅介護・随時対応型訪問介護看護を実施する事業所の公募	→→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→
	目標【2022(令和4)年度】	現状【2013年度末】		
小規模多機能型居宅介護が3箇所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が1箇所		小規模多機能型居宅介護1箇所 定期巡回・随時対応型訪問介護看護0箇所		
＜2020年度 進捗状況＞		事業費(2020(令和2)年度実績額) 円		
実施結果	○市主催の地域包括ケア会議を年2回、各地域包括支援センター主催の地域ケア会議を22回実施した。コロナ禍における介護予防のための検討や、認知症の理解、地域での見守りの必要性等をテーマに開催した。 ○基幹型センターを中心に「介護予防のための地域ケア会議」を7回実施、自立支援を目指す介護予防ケアマネジメントを検証し、難病やターミナルケア、訪問介護による生活援助の回数の多い事例を検討した。リハビリテーション等専門職を助言者とし、事例のアセスメント結果から高齢者の社会参加の必要性が高いことがわかってきた。			
反省点・問題点	新型コロナの影響により、会議の開催自粛や書面による開催となり、予定通り実施できないことが多くあった。	工夫している点	新型コロナによる影響をテーマとして会議を開催する等の工夫をした。ZOOMの活用も一早く行い、柔軟に対応している。	
＜目標【2022年度】に対する評価＞				
進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価	
○平成29年4月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護1ヶ所、平成30年4月から小規模多機能型居宅介護3ヶ所を整備した。	ア ②事業完了		(a)順調である	
＜審議会・懇話会等の意見＞				
この状況下での新しい事業の推進、頑張っており、目標達成していることは評価でき、施策として順調。しかし、小規模多機能型居宅介護等の事業で必ずしも市民に周知されていないサービスもあり、改めて介護サービスの全体像について市民への周知を図っていただきたい。フレイル状態になっていることに本人が気づいていないことが多いので、客観的な指標を作って、認識を深めてから、希望者を募るとよい。			審議会等が 評価する 評価区分	
			(a) 順調である	



返子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち	
1-3	3	3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所 管 名	1410 社会福祉課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円
事業名 高齢者介護予防事業			
事業概要	目的	要介護状態になるおそれがある高齢者(二次予防事業対象者)や一般の高齢者に対し、要介護状態とならないように支援する。	
	対象	要支援・要介護認定を受けていない第1号被保険者	
手段	一般高齢者に対する体操等の教室や、二次予防事業対象者を選定した後、運動、口腔・栄養教室を開催する。		
	また、地域で介護予防に資する活動を定期的に行っている団体に対し、健康運動指導士その他専門職の派遣や活動費の助成の支援を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	「元気な高齢者」の割合が83%以上となっている。	「元気な高齢者」の割合が83%以上となっている。	【第8期返子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
	市内の高齢者サロンが25ヶ所、延参加者数が13,000人となっている。	市内の高齢者サロンが25ヶ所、延参加者数が13,000人となっている。	【第8期返子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
「元気な高齢者」の割合が83パーセント以上になっている。 また、市内の高齢者サロンが25か所、延べ参加者数が13,000人になっている。		80.4パーセント 18か所、延べ約9,600人	
＜2020年度 進捗状況＞		事業費(2020(令和2)年度実績額)	円
実施結果	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果に基づき、要介護状態となる恐れのある者を抽出し、地域包括支援センター職員が自宅訪問をし、介護予防のための活動に早期につなげる支援を行った。把握できる者は全体の30%程度でありもっと積極的に取り組む必要がある。 新型コロナウイルスの影響により、各団体に自粛を要請し、サロン活動を中止した団体が多くみられた。15団体参加延人数は5,637人であった。活動の際には感染対策マニュアルなどを作成して配付、安全な活動をできるよう支援した。		
反省点・問題点	コロナ禍において、自粛による機能低下がみられる者が増加しているため、もっと積極的な把握をする必要がある。 サロン活動は団体数が低下傾向であり、継続のための支援策を提案し実施できるようにしていく。	工夫している点	自宅訪問は難しいため、電話やはがきなどで現状把握するなど工夫した。また、自粛下でも活動できる体操の開発やパンフレット・DVDの配付を行った。
＜目標【2022年度】に対する評価＞			
進捗状況	結果	個別事情【社会状況変化等考慮すべき事情】	事業評価
「元気な高齢者」の割合 79.54%(2021年3月末現在) 市内高齢者サロン15ヶ所 延参加者数5,637人	イ 予定より遅れている	新型コロナによる自粛等の影響によるもの	(b)概ね順調であるとみなせる
＜審議会・懇話会等の意見＞			
新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、現状把握のための様々な積極的なアプローチや取り組み方法(自粛下でできる対応の開発、パンフレット及びDVDの配布)を工夫していたことまた、元気な高齢者率が減少していないこと及び調査を基に介護予防の活動に結びつけたことは評価できる。しかし、この状況下であるから、なおさら介護予防に力を注ぐこと及び反省点に記載のある内容の実施をお願いしたい。高齢化による身体機能の低下、とりわけ足腰の機能低下により、通常仕様の路線バスの利用が困難になってくる。市内の路線バスのノンステップ化(低床化)について、現状の把握と、改善に向けたバス事業者との協議を要望する。			審議会等が提出する評価区分 (b) 概ね順調であるとみなせる



逗子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち	
1-3	4	3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所 管 名	1410	社会福祉課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業
事業名	介護予防・日常生活支援総合事業(健康寿命を延ばしてみんなで元気な高齢者をめざす取り組み)		
事業概要	目的	全国一律のサービス内容であった訪問介護や通所介護については、介護事業所による既存のサービスに加えて、多様な主体による多様なサービスが提供され、利用者がサービスを選択することができるようにする。	
	対象者等	65歳以上の高齢者もしくは要支援・要介護認定者及び高齢者を支える自治会・町内会、ボランティア、介護事業	
手段	対象者のニーズに合った多様な生活支援サービスが利用できる地域資源の開発や人材を育成するために、生活支援コーディネート業務を逗子市社会福祉協議会に委託する。介護予防給付のうち、訪問介護及び通所介護を給付から地域支援事業へと移行するに当たっては、多様な主体による柔軟な取り組みにより効果的かつ効率的に生活支援サービスを提供していく。また、全庁的、全市的な協力や連携をすることで、みんなで元気な高齢者をめざす取り組みを展開する。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	○庁内各課及び関係機関との連携による介護予防・生活支援サービスの提供	→→→→→	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
「元気な高齢者」(65歳以上の高齢者のうち、要支援・要介護者認定を受けていない者)の割合が83パーセント以上になっている。		80.4パーセント	

<2020年度 進捗状況>

事業費(2020(令和2)年度実績額)

円

実施結果	○社会福祉課と国保健康課で協働し、「元気な高齢者を増やそうプロジェクト」を実施した。新型コロナの影響により自粛を余儀なくされ、集合によるイベントが開催しにくい中、「逗子どこでも体操」を考案しパンフレット・DVDを作成し配付した。また、リハビリテーション等専門職を通いの場へ派遣し、自粛により閉会したサロン活動の再開支援を行った。	
	○介護予防・日常生活支援総合事業については、通所型サービスCは緊急事態宣言の影響により実施がほとんどできなかった。訪問型サービスBは感染防止策を講じ、継続的に支援を行った。	
反省点・問題点	元気な高齢者率は新型コロナの影響により大幅に停滞した。要介護認定者は増加しており、対策が必要である。	工夫している点 感染防止策を講じ介護予防や健康増進に資するよう、国の補助金を活用しパンフレットやインターネットの利用した広報活動を早期に着手した。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
「元気な高齢者」の割合 79.54%(2021年3月末現在)	イ 予定より遅れている	新型コロナによる自粛等の影響によるもの	(b)概ね順調であるとみなせる

<審議会・懇話会等の意見>

2021年度から、総合事業の利用対象者の弾力化が図られたが、既要介護認定者についても同事業の利用が可能となった。多様なサービスの活用により重度化防止・自立支援の促進を図る観点から、同事業の財源の拡充と、利用について周知・勧奨の検討を要望する。このコロナ禍の状況下でイベントの開催がしにくい中、パンフレット及びDVD作成、インターネットを利用した広報活動の早期着手等、積極的かつ十分に工夫・努力している点が評価でき、引きこもりによる不活発化を危惧するため、普及活動の継続に期待する。

審議会等が妥当と考える評価区分

(b) 概ね順調であるとみなせる



返子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】 1-3 5		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち 3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所管名	1430 高齢介護課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	
事業名	介護予防普及啓発事業		
事業概要	目的 高齢者自らが主体となり、一般市民と共同し、日常生活の基本ともいえる筋力強化による運動奨励施策に加え、自立健康者への応援と、寝たきりゼロ運動推進を目指して、介護サービスを受けない高齢者づくりを推し進める。 対象 市内在住の高齢者 手段 シニア健康教室として実施する。		
	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	○シニア健康教室の開催 (ズシッパ連合会に委託)	○シニア健康教室の開催 (ズシッパ連合会に委託)	【第8期返子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
年度別計画	2022(令和4)年度 【第8期返子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】		
目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
「元気な高齢者」の割合が83パーセントになっている。		80.4パーセント	

<2020年度 進捗状況>

事業費(2020(令和2)年度実績額)

0 円

実施結果	○シニア健康教室を開催できなかった。		
	反省点・問題点 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ観点から、11、12月のみ開館であったため、教室を開催できなかった。	工夫している点	シニア健康教室については、比較的前期高齢者の参加が多く、今後も参加し易い教室運営を目指している。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
元気高齢者率令和2年度実績79.54%となった。	イ 予定より遅れている	新型コロナによる自粛等の影響によるもの	(b)概ね順調であるとみなせる

<審議会・懇話会等の意見>

新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受けたため、致し方なかった。シニア健康教室の開催は難しいなど、十分に力を発揮できなかったが、元気な高齢者の減少が小幅だったので、概ね順調と考えられる。シニア健康教室は、オンライン開催等の工夫によって参加者が増えるのではないかと。コロナ後の活動再開など今後期待したい。	審議会等が 要否と考える 評価区分 (b) 概ね 順調であ るとみな せる
--	---



逗子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】 1-3 6		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち 3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所管名	1430 高齢介護課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円
事業名 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業			
事業概要	目的 高齢者自身の人生を豊かにするために高齢者が互いにふれあい、学びあう講座等を開催し援護する。		
	対象 市内在住の高齢者		
	手段 ヨガ教室や英会話教室等、教養講座5講座を開催		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	○高齢者教養講座講師謝礼金(初心者ヨガ教室、寺子屋、英会話教室、プチフラワー、手品教室) ○高齢者教養講座事業委託(ズシッブ連合会へ委託)	○高齢者教養講座講師謝礼金(初心者ヨガ教室、プチフラワー、歴史講座、高齢社会を生き抜く講座) ○高齢者教養講座事業委託(ズシッブ連合会へ委託)	【第8期逗子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】
「元気な高齢者」の割合が83パーセントになっている。			80.4パーセント

<2020年度 進捗状況>

事業費(2020(令和2)年度実績額)

0 円

実施結果	○高齢者教養講座(直営及びズシッブ連合会へ委託)を開催できなかった。		
	反省点・問題点	工夫している点	次の事業展開に向けてズシッブ連合会と話し合いをしながら、事業実施している。
反省点・問題点	新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ観点から、11、12月のみ開館であったため、教室を開催できなかった。		

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
元気高齢者率令和2年度実績79.54%となった。	イ 予定より遅れている	新型コロナによる自粛等の影響によるもの	(b)概ね順調であるとみなせる

<審議会・懇話会等の意見>

<p>新型コロナウイルス感染症の影響下では、高齢者の感染予防が最重要国策だったため、やむを得ない結果。概ね順調だが、コロナ禍後の活動再開含め今後に期待したい。事業の目標に「元気高齢者率83%」を掲げているが、今後の一層の高齢化の進行の中で、要介護認定率の引き下げを政策の至上目標とすることは困難であり、また目標としても必ずしも適切ではない。認定率の引き下げを自己目的化した認定抑制等に結びつくことを危惧する。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(b) 概ね順調であるとみなせる</p>
--	--



逗子市高齢者保健福祉計画

【総合計画の体系】 1-3 7		第1節 共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち 3 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	
所 管 名	1410 社会福祉課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円
事業名 認知症地域支援推進事業			
事業概要	目的 認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で、生活を継続するための支援体制を構築する。		
	対象 認知症の高齢者もしくはその家族及び認知症の人を支える自治会・町内会、ボランティア、介護事業者等		
	手段 医療機関や介護サービス等の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う認知症地域支援推進員を配置し、支援体制を構築する。市民が自らの認知症の程度について、簡易判定ができるシステムを導入する。また、認知症キャラバンメイトが、地域、職域、学校等において認知症サポーター養成講座を実施する。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	認知症サポーター養成講座の開催 認知症初期集中支援チーム員会議の開催 家族のための物忘れ相談会の実施	認知症サポーター養成講座の開催 認知症初期集中支援チーム員会議の開催 家族のための物忘れ相談会の実施	【第8期逗子市高齢者保健福祉計画策定後(令和2年度末)に年度別計画を記載する】
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】
認知症サポーターが3,000人になっている。			1,000人

<2020年度 進捗状況>

事業費(2020(令和2)年度実績額)

円

実施結果	○認知症サポーター養成講座は、新型コロナの影響により、地域において3回の実施に留まり59名を養成した。 ○認知症初期集中支援チーム員会議は、対象者7名に対し8回会議を開催した。医療と介護・福祉の専門職チームにより早期に適切な医療・介護サービスを受けることができるよう検討を行った。 ○家族のための物忘れ相談会は11回実施し18名に対応した。働き世代等の家族の都合にあわせて土曜日に実施をしたところ、3名の申込みがあった。適切に社会資源につなぐなど対応した。		
	反省点・問題点	工夫している点	認知症サポーター養成講座を修了した者のボランティア登録を出来る仕組みを構築したが、新型コロナの影響により講座自体の開催が少ないので、今後はオレンジパートナーとして活動ができるよう取組む。 認知症初期集中支援チーム員会議は提案事例と開催回数が増加した。今後も綿密な検討を積み重ねていく。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
認知症サポーター数3,227人(2021年3月末現在)	ア ①予定どおりに進捗		(a)順調である

<審議会・懇話会等の意見>

認知症サポーター数が既に令和4年度目標を達成しており、進捗状況は大変望ましく順調。認知症は治すことより、どの様に生活していくかの時代が変わりつつある。住み慣れた地域で生活を継続するための支援体制としては、大きな成果と考えるが、この事業は今後更に重要なものとなっていく。今後サポーターの有意義な活動や家人のサポートにも期待し注視してゆきたい。	審議会等が 賛否と考える 評価区分 (a) 順調である
--	--